



旧深層心理研究会五十周年記念によせて。  
NPO法人JDP（日本深層心理研究会）理事長 佐藤 秀

旧深層心理研究会、五十周年おめでとうございます。心より、お祝い申し上げます。

それは同時に、NPO 法人十周年の記念日でもあります。そのような節目のご挨拶させて頂けるという事は、大変な名誉と同時に喜びでもあります。

私が深層心理研究会を引き継ぎ、この十年間無事運営できましたのも、先輩諸氏ならびに山口彰先生のご指導のお陰であり、会員の皆様の温かいご支援の賜物であります。どうか皆様、今後とも、当 NPO 法人をよろしくお願い申し上げます。

思い返せば三十二年前、研究会にて学ばせていただいたピグマリオンマインドで、荒れる学校の問題を解決した事がきっかけで、現役教師時代を通して、子供たちを信じる教育を実践し続けてきました。多くの子供たちを救い、育て、導いてこられたのは、研究会のお陰だと言えます。

先輩方の暖かいご支援も得て、研究会を引き継いだ後、さまざまな異論のある中で、私は信念の元、教育の現場へのアプローチを続けてまいりました。教育現場でのそれなりの結果は出てきたものの、結果として会の縮小を招いてしまったのは事実です。原因は、時代の変化でした。

この十年で、教育現場の実情も様変わりし、また教育の問題も複雑化してきました。現役教師たちの声を聞くたびに、外部の自主的な研究会という形での教育現場への貢献という手法は、もはや時代のニーズに答えていないのではないかと考えるようになりました。

さて、私自身の話で申し訳ありませんが、長年椎間板ヘルニアを患っており、いろいろな整体を勉強しておりました。その折、さまざまな症例の方々とお会いする機会を得たのですが、体を病んでいる人は、同時に心も疲れてみえる事に気がつきました。

身体の痛みをここで消すことは、至難の業でした。12年前に私は、操体法という整体の手法と出会い、痛みを解消するのに、潜在意識の力を活用する方法を知りました。この手法は、緊張と弛緩で、骨格の歪みを解消するというものです。この整体を自己調整法として、自律訓練法と組み合わせセラックス操体として、発表しました。数年前から複数の講座で実践し、参加者からさまざまな喜びの声を聞きました。この技法を、心理技法として、採用しました。

NPO 法人設立十年から学んだ事は、法人の発展は社会のニーズに応えることによるのみ達成できる、という事です。

社会のストレスをどう解消するのか。

現代の社会は、多くのうつ病患者を抱え、人々は対応に苦慮しています。老人医療費問題もあります。そして、そのいずれにも、われわれの理念と技法は役に立ちます。

私たちの法人の役割は期待されています。多くの会員がそのニーズに応える技術を練磨していただき、社会に広く寄与されることを期待しています。

故千葉社長、故小尾様、故杉浦様と素晴らしい諸先輩に囲まれ、その意思を受け継いでいきたいと願っております。

主幹の進言もあり、法人の体質を改革して参ります。

今後も皆様のご支援ご指導をお願いいたします。